

授業概要

造形指導者として子どもの柔軟な感性に対応していくためには、様々な素材に親しみ、豊かな造形体験が必要である。本講義では造形活動の指導・実践に必要な材料・用具の取り扱いについて理解するとともに、造形の基礎技能の習得を図る。また、造形活動で用いられる基本的用具（クレヨン・ポスターカラー・粘土等）の扱い方と、製作の材料を活かした多様な表現、安全指導などについて学ぶ。幼・保・小学校の連続性を視野に入れた絵画・造形の発達段階について理解を深める。

授業計画

第 1 回	造形活動のねらいと内容（材料・用具についての正しい知識と安全指導）
第 2 回	平面表現の基本と展開Ⅰ 合わせ絵（デカルコマニー）
第 3 回	平面表現の基本と展開Ⅱ 糸引き（ストリングデザイン）
第 4 回	平面表現の基本と展開Ⅲ 型押し絵（スタンピング①野菜の活用）
第 5 回	平面表現の基本と展開Ⅲ 型押し絵（スタンピング②廃材と人工物の活用）
第 6 回	平面表現の基本と展開Ⅳ 引っかき絵（スクラッチ①クレヨンと棒状絵の具について）
第 7 回	平面表現の基本と展開Ⅳ 引っかき絵（スクラッチ②世界の児童画に見られる様々な線描）
第 8 回	平面表現の基本と展開Ⅴ 切り絵（ハサミを用いた多様な表現）
第 9 回	平面表現の基本と展開Ⅵ 墨流し（マーブリングの不思議な世界）
第 10 回	平面表現の基本と展開Ⅶ 色染め（板締め絞り）
第 11 回	立体表現の基本と展開Ⅰ 粘土の特徴と種類（油粘土・紙粘土・小麦粉粘土など）
第 12 回	立体表現の基本と展開Ⅱ 油粘土と感触遊び（動物づくり）
第 13 回	立体表現の基本と展開Ⅲ 型を使った和紙の彫刻（張り子・お面づくり）
第 14 回	立体表現の基本と展開Ⅳ 和紙の立体彩色（色と形）
第 15 回	立体表現の基本と展開Ⅴ 紙の特性・接着の種類（のり、ボンド）
第 16 回	鑑賞教育 まとめ 作品提出

到達目標

- 子どもの造形表現に関する知識や基礎技能の習得を図るとともに、表現の楽しさを実践的に学んでいく。
- 子どもの自分なりに表現する姿を理解すると同時に援助することを具体的場面から学ぶ。
- 造形活動を通して、様々な材料用具の正しい扱い方と安全指導を身につける。

履修上の注意

造形活動で用いられる様々な材料用具（工作用紙・クレヨン・絵の具・油粘土等）は、各自が準備することになる。詳細は授業内で随時伝える。

予習復習

学生自身が造形活動を楽しみ、豊かな感性を育てることが求められる。そのための準備・努力を惜しまないこと。主体的かつ授業外においても、造形活動に取り組むことを期待する。

評価方法

個人・共同製作における持ち物の準備（20%）。作品の期限内における提出の有無と内容（40%）。学習態度、協調性（40%）

テキスト

教科書名：『保育をひらく造形表現』
 著者名：榎 英子
 出版社名：萌文書林
 ISBN：978-4893472953